

令和 8 年 8 月 22 日

愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う

青山神明遺跡地元説明会資料



令和 8 年度は5月から愛知県埋蔵文化財センターが愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う発掘調査を実施しています。

今回の説明会では、26Eb 区を中心に 26Ea 区の一部をご覧いただけます。また、すでに調査が完了した 26D 区、26J 区の調査成果も合わせて紹介します。主に弥生時代から江戸時代の遺構と遺物が確認されています。

編集
配布

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
<https://maibun.com/>

調査
支援

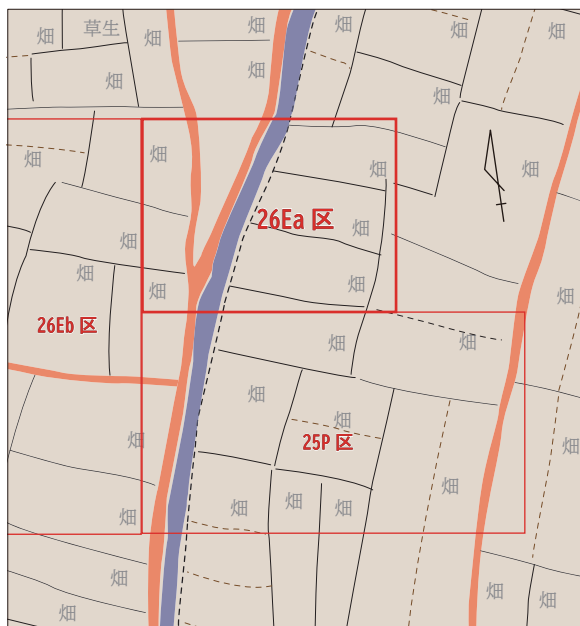
 **shimada**
株式会社島田組

〒581-0034 大阪府八尾市弓削南 3-20-2
<https://shimadagumi.co.jp>

26Ea 区の調査成果



26Ea 区 空中写真（破線は埋め甕・井戸の位置）



凡例 道 水路
「愛知県西春日井郡豊場村地籍字分全図」（明治 17 年、愛知県公文書館蔵）
をもとに作成

明治時代の地籍図と調査区

26Ea 区の調査では、鎌倉～室町時代の溝や周溝遺構、古墳時代の土坑などが見つかっています。柱穴は数が少なく、すぐ南隣の調査区（25P 区）で建物跡がまとまって見つかった状況とはかなり様子が変わります。

この調査区での大きな成果は明治時代の地籍図に記された道と水路を調査したことです。道には石が敷き詰められ、二股に分かれる状況が良く残っていました。地籍図によると当時は、道と水路のまわりには畑が広がっていました。



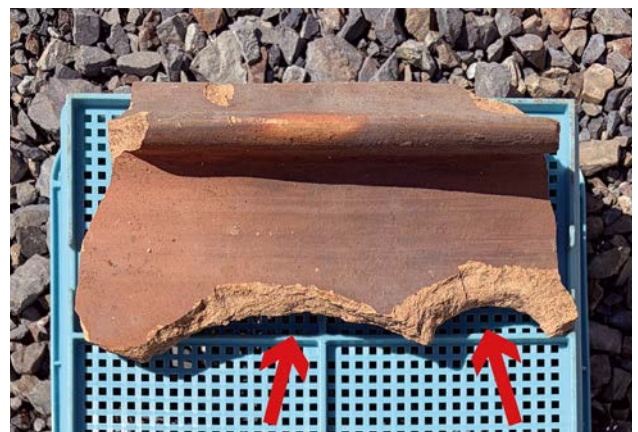
埋め甕と井戸の全景（北西から）



地上に飛び出ている部分を割った状況（南から）



埋め甕に石を詰め込んだ状況（北から）



先端が尖ったもので割った痕跡

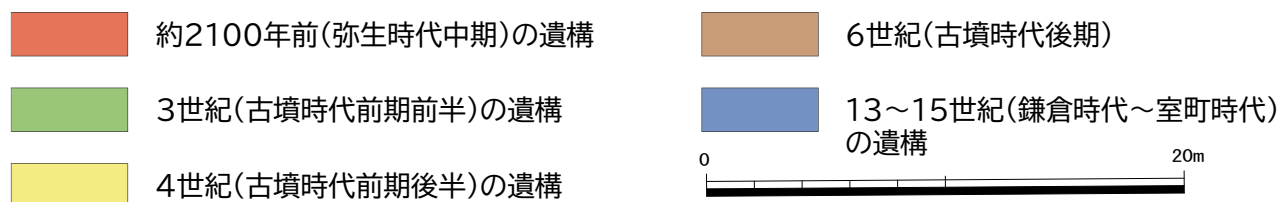
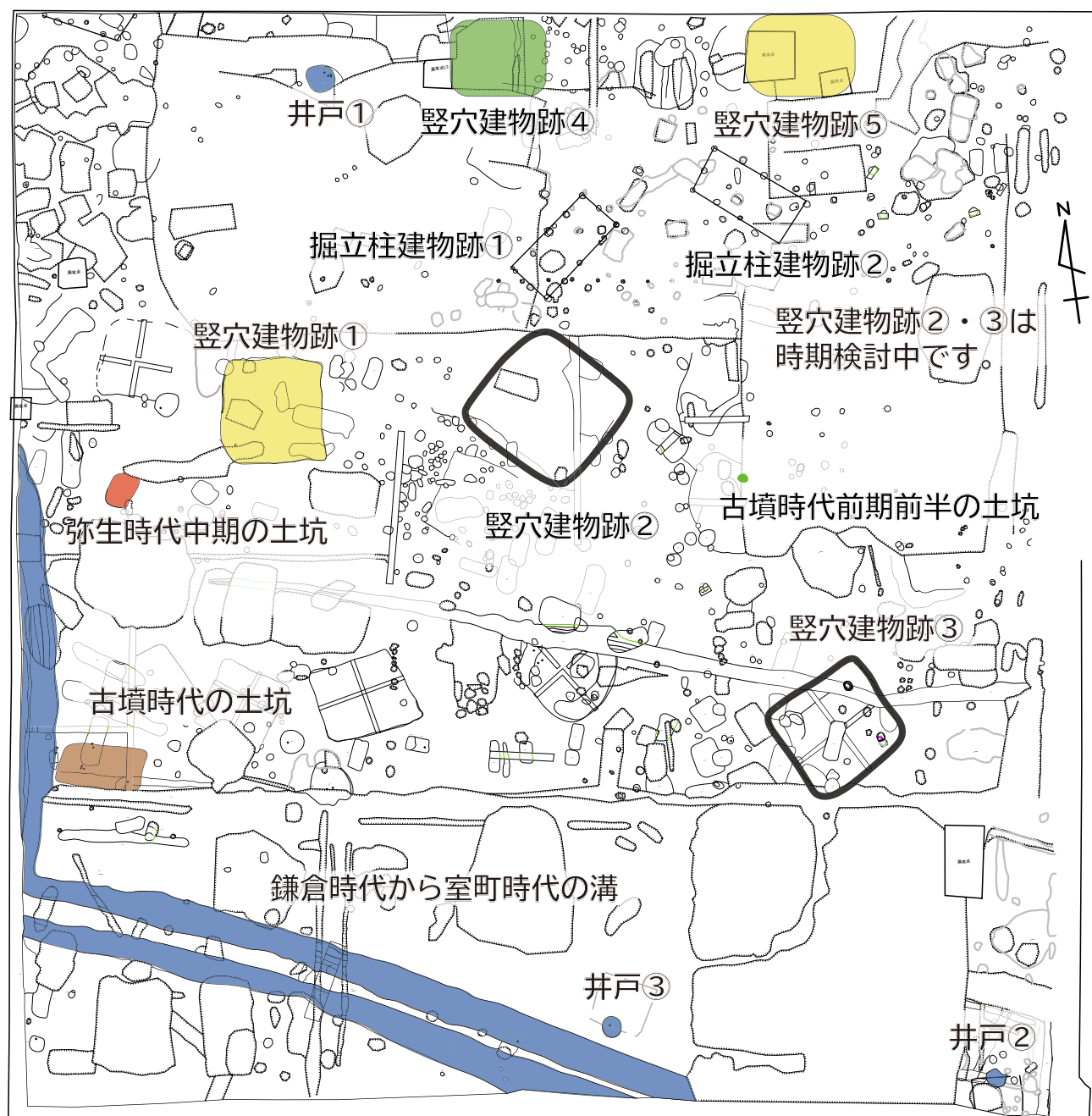
道の下から見つかった埋め甕と井戸（18 世紀後半～）

明治時代の道の下からは、18世紀後半の^う埋め^{がめ}甕（常滑焼）2つと井戸が1つ見つかりました。畑に使う^{みずた}水溜めの役割を果たしていたと考えられるので、18世紀後半（江戸時代後半）もこのあたりが畑であったことがわかります。

その後19世紀（幕末）頃に畑と畑の間にあった埋め甕と井戸に石を詰め込んで埋め立て、埋め甕の地上に飛び出ている部分を割って地面を一度水平にし、そのうえで石を敷き詰めて路面を整えたことが調査で確認できました。

したがって、地籍図に示された枝分かれの道のうちの1本は、18世紀後半（江戸時代後半）には存在せず、^{さかのぼ}遡っても幕末頃に造られたものであることが推定できるようになりました。

26Eb 区の調査成果



26Eb 区では、約 2100 年前（弥生時代中期）の土坑 1 基、3 世紀～6 世紀の竪穴建物跡が 5 棟、6 世紀（古墳時代後期）の土坑 1 基、鎌倉時代の井戸 3 基、鎌倉時代から室町時代にかけての溝などが見つかっています。



弥生時代中期(約 2100 年前)土坑 遺物出土状況(西から)



3 世紀(古墳時代前期前半) 器台出土状況(北東から)



4 世紀(古墳時代前期後半) 竪穴建物跡①(西から)



6 世紀(古墳時代後期) 土坑 遺物出土状況(東から)



13 世紀(鎌倉時代)の井戸 遺物出土状況(南から)



鎌倉時代から室町時代にかけての溝(北西から)

弥生時代中期の土坑は調査区西側で確認され、^{かめ}甕や^{はち}鉢、壺などの器種の破片などがまとまって出土したことから、ゴミ穴であった可能性があります。

古墳時代前期前半の土坑は調査区東側で見つかり、土坑からは器台が逆さまの状態で出土しました。

古墳時代前期後半の竪穴建物跡①は、^{ゆかめん}床面が残り^{ろあと}炉跡と考えられる^{しょうど}焼土も見つかりました(破線で囲ってある部分が焼土です)。古墳時代後期の土坑は調査区南西側で見つかり、^{すえ}須恵器杯身・^{きつきみ}杯蓋・^{つきぶた}土師器台付^{はじき}甕などがまとまって出土しました。弥生時代中期の土坑と同様にゴミ穴の可能性もあります。

これまで古墳時代中期～古代(奈良・平安時代)の竪穴建物跡が確認されていましたが、今回新たに古墳時代前期の竪穴建物跡も見つかりました。

26D 区の調査成果



土坑⑦土層断面（遺物出土状況：西から撮影）



弥生土器



26D 区全景（東から撮影）

溝③(江戸時代)

水田跡
(江戸時代～近代)

土坑⑦

土坑⑥

土坑⑤

溝①(近現代)

溝②(近現代)

溝④(江戸時代)

土坑⑨

土坑⑩

土坑⑫

溝⑤(江戸時代)

弥生時代

江戸時代

江戸時代～近代

近現代

5m

S=1:150

26D 区は青山神明遺跡の北端に位置する調査区です。

発掘調査の結果、江戸時代の溝と弥生時代の土坑などが発見されました。

まず、江戸時代では、おおむね東西方向にのびる溝が3本見つかっており、この溝は耕作地などを区画したと想定されます。

次に、弥生時代では、弥生土器片が含まれる小さな土坑⑦が1基確認されており、外面に条痕文と呼ばれる筋目が残る弥生時代前期頃の弥生土器が出土しました。

そもそも、この調査区の北西側は県埋蔵文化財調査センターの試掘調査（範囲確認）によって遺跡がないことが確認されています。今回の調査により、調査区北西部は中江川に向かって地形が下がり近代まで水田になっていたこと、および古墳時代から室町時代まで遺構や遺物がないことから、この場所が外縁部（端っこ）にあたることが追認されました。

26J 区の調査成果



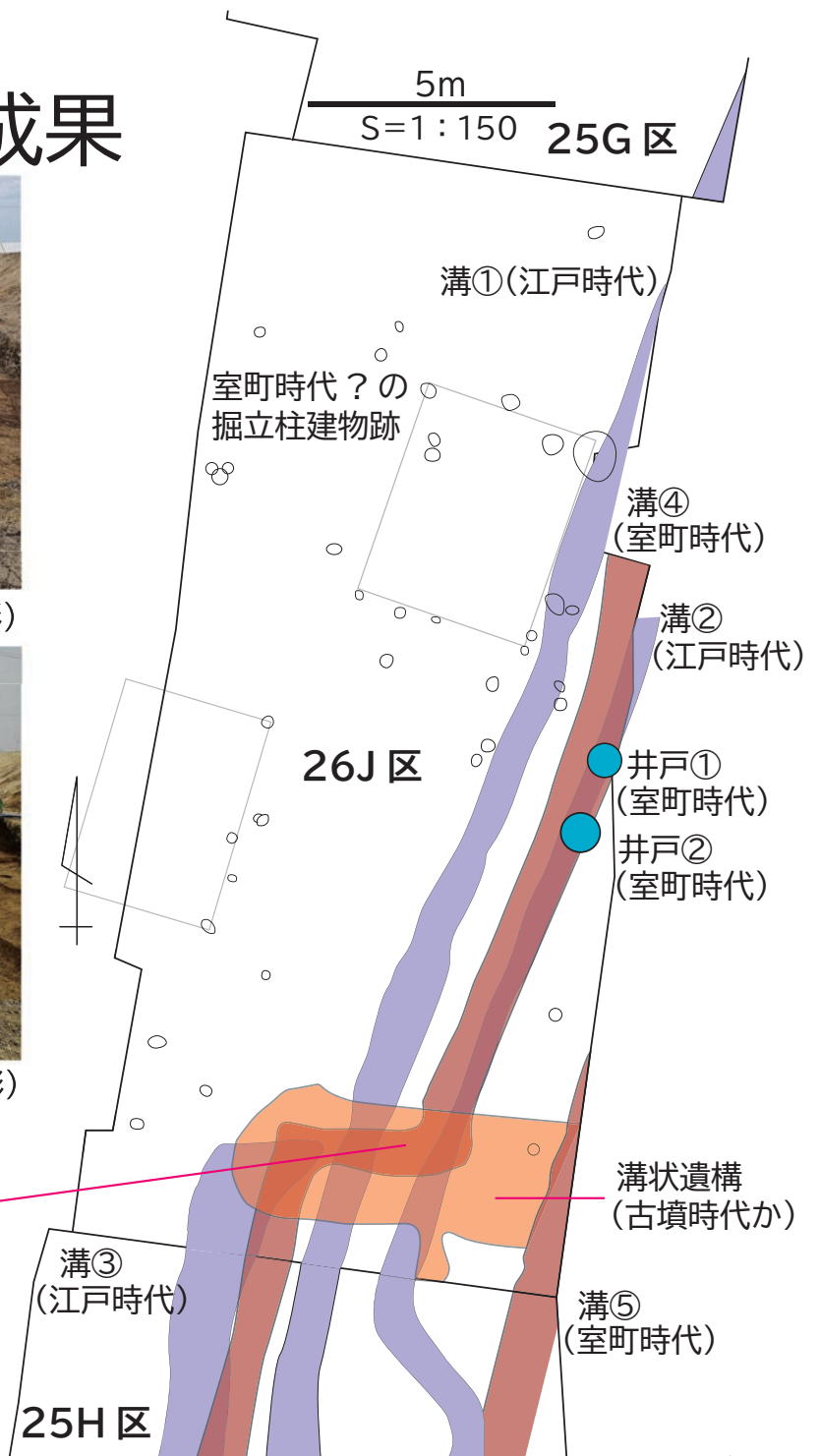
江戸時代の溝の完掘状況（南から撮影）



室町時代の溝の完掘状況（南から撮影）



土師器高杯の杯部

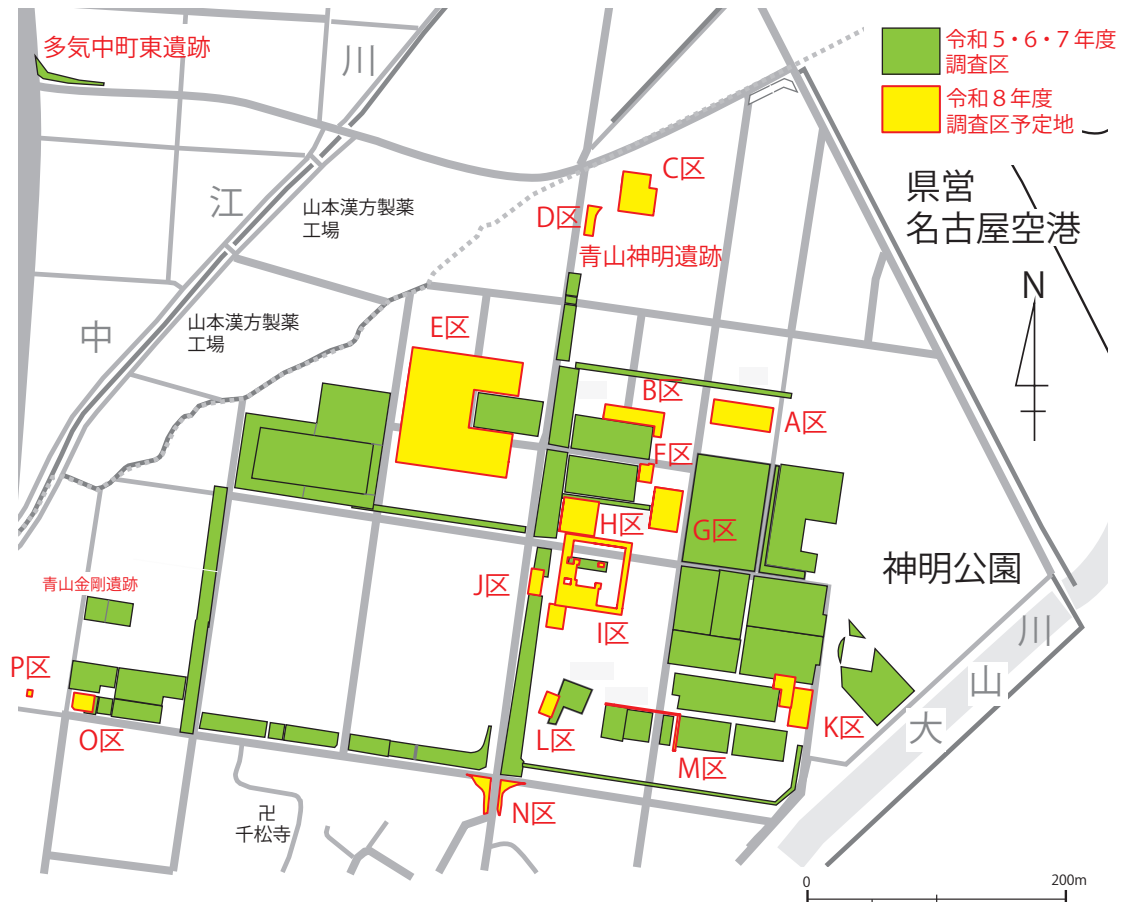


遺跡の中央にある 26J 区では、25G 区と 25H 区で検出された江戸時代の溝と室町時代の溝の続きが確認され、溝のつながり方の詳細が判明しました。

江戸時代では、南側の 25H 区から北にのびる3本の溝のうち中央の溝①が北の 25G 区につながり、西側の溝③は調査区南端で止まっていくことが特定されました。一方、室町時代では、25H 区から北にのびる2本の溝のうち西側の溝④は調査区南部でクランクし、溝が埋め戻された後すぐに井戸が2基（井戸①・②）作られています。

一方、東にのびる溝状遺構は付近で土師器高杯が出土しており、古墳時代の遺構かもしれません。

青山神明遺跡の発掘調査について



青山神明遺跡 調査区配置図

青山神明遺跡は西春日井郡豊山町大字青山字神明を中心に広がる遺跡です。遺跡の発掘調査は愛知県埋蔵文化財センターが令和5年6月から開始し、今年度末までにおおよそ55の地区（調査区）で行う予定です。これまで8回の地元説明会を開催し、発掘調査の成果を公開してきました。今回の説明会で主に公開するのはE区で、すでに調査が終了したD区とJ区の成果についても紹介します（残念ながら現地を見ていただくことはできません）。

これまでの青山神明遺跡の発掘調査では縄文時代から江戸時代までの各時代の遺構と遺物が見つかっています。最も古い遺物は縄文時代草創期の狩猟用の石器で、中心となる遺構と遺物は、古墳時代と中世（鎌倉・室町時代）の建物や井戸、溝、墓、日常生活で使う土器や陶器です。今回公開するE区では、比較的状态が良い古墳時代の竪穴建物や土器、これまでの調査であまり見つかっていなかった弥生時代の遺構と遺物を特に注目して見てください。